

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名: 秦野市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社愛鶴	上地区乗合自動車【湯の沢線】 ●渋沢駅北口～湯の沢終点(4.8km) ・平日: 渋沢駅発5便、湯の沢終点発11便	前回の事業評価結果において、「地域」と「事業者」と「行政」の3者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築するよう助言があった。 上地区乗合自動車は上記3者で構成された協議会(上地区公共交通協議会)によって運営されており、利便性の向上に向けた新ルート検討等の協議を活発に実施した。	A 上地区公共交通協議会において、利用者数増加を目的とした新ルートの運行について、協議を重ねたことで、令和5年10月からの新ルート運行が実現された。 また、車体への広告収入を継続するなど、運賃収入以外の収入確保に努めた。 さらに、小学生が社会体験や自然体験等に利用しやすいよう、学校長期休業期間における小児運賃を半額の50円とすることも継続した。 これらのことから、秦野市地域内フィーダー系統確保維持計画に基づき、利用者の交通手段を確保維持することができたため、事業は適切に実施された。	C 上地区乗合自動車を持続可能なものとするため、上地区公共交通協議会において、継続要件:2.40人/便以上(人件費を運賃収入で賄う)、継続目標:3.72人/便以上(廃止前の路線バスの平均利用者数)を定めている。 令和5年度分(令和4年10月～令和5年9月)の運行実績は2.37人/便であり、継続要件及び継続目標ともに達成ができなかったが、前年度より0.08人/便増加し回復傾向である。	継続目標の達成に向け、上地区公共交通協議会を中心に下記の施策を実施する。 ○新ルートでの運行 令和5年10月からは、利便性が向上された新ルート(【みくるべ線】と【柳川・八沢線】を統合した循環線)での運行を実施し、利用者数の増加を図る。 ○利用促進策 ・学校長期休業期間における小児運賃については、引き続き、半額の50円とし、小学生の利用促進を図る。 ・スタンプラリー等、上地区乗合自動車へ乗車するきっかけとなる企画を実施する。 ○持続可能な運行の基盤づくりに向けた取組 ・収支率向上のため、車体への広告料収入を継続する。 ・より効果的かつ効率的な運行方法等について検討していく。
	上地区乗合自動車【みくるべ線】 ●渋沢駅北口～渋沢駅北口(循環・11.6km) ・平日: 8便 ●みくるべ榎戸～渋沢駅北口(6.7km) ・平日: 1便				
	上地区乗合自動車【柳川・八沢線】 ●渋沢駅北口～八沢沢の下(6.1km) ・平日: 渋沢駅発3便、清戸発4便				

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)
 住民・利用者を交えて利便性の向上に向けた新ルート検討等の協議などの取組は評価できるが、継続要件の目標は未達成となった。運行ルートの見直しをきっかけに、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。